

東日本大震災 避難者支援 餅つき大会

日時：平成24年12月24日

場所：札幌市市民活動プラザ星園

参加者：約60名

内訳 避難者約40名

協力者約20名

震災避難の為に、札幌市に在住を余儀なくされている方々は1500名の多数に上ります。特に若いお母さんと子供という母子家庭状態の方々が大量おり、様々な困難を抱えています。

北海道ふるさと回帰支援センターが呼びかけ人となり、大量の方の協力のもと12月24日クリスマスの日の早朝、約40名の避難中の方に参加いただき「年越し餅つき大会」を実施いたしました。小学校の入学前後の年齢のお子さんも10名ほど参加し、子供は小さな杵と子供用の臼に向かって元気よく餅をつき、大人も男女の別なく（女性の方が積極的でした）全員が餅つきに興じていました。日頃の不安や不満をおもっきりぶつけるには臼と杵は絶好の道具です（?）。

企画した側も、「昔取った杵柄」のとおり少しづつ感覚を取り戻しながら、おっかなびっくり杵をふるっていましたが、体力よりも年の功で70歳オーバーの経験者が素晴らしい知力を発揮して全体をリードしていただきました。

餅つきは古来より、地域のハレの行事の中心でした。たった1回しか実施していないのでうんちくは遠慮しますが、なかなかえーもんですよ。ノウハウも深いものがあり、もっと地域の行事として見直されたらいいですね。

避難され2度目の年越しを札幌で迎えることになった方々も多くおります。大震災被害や福島原発事故を忘れず、一日も早く元の生活が回復されることをお祈りします。

それはともかく、つきたての餅は大変美味しいものでした。あんこ、きな粉、大根おろし、納豆などいろいろなものと一緒に食べると病みつきになります。特に、あんこと大根は栗山町のハサンベツの里山で作られた無農薬のもので大変貴重なものでした。

来年も是非、餅つき大会を実施しましょう。

